

地元と富士見町の
協力で無事に終了

本郷キャンパスの地元・
追分通り三面大黒天商栄会
宮の手伝い、米作りと農

業体験を通して、地域交
流・地域貢献の一端を担っ
ています。今年も5月の朝
市、6月の田植え、8月の
草取り、10月の稲刈りと続
き、10月15日の文京祭では
「もったいない野菜」産直



三面大黒天商栄会インターンシップ担当の小林益夫さん（後列左から5人目）らを囲む文京勢（前列左から5人目・川邊信雄学長、右から3人目・島田燁子学園長

販売（主催＝追分通り三面
大黒天商栄会）を通して、
富士見町の規格外野菜と物
産品が販売され、短時間で
売り切りました。11月3日
には「道の駅ふじみ」で行
われた「富士見産業祭」に
も文京勢がこぞって参加。
今回は、インターンシップ
生他にも知財化センター
のフレイメンズ、パネルシ
アターサークルのピノキ
オ、チアリーディング部S
PARKYの学生たちが
物販やパフォーマンスを繰
り広げ、会場に華を添えま
した。

11月13日は「追分通り商
栄会まつり」。1部は向丘
一丁目遊び場内で朝市を実
施。2部は本郷キャンパス
B'sダイニングで、収穫祭始
め演芸会や抽選会があり、
大学のマンドリン同好会も
演奏を披露して拍手喝采を
浴びました。

インターンシップ生とし
て、これらの事業に参加し、
収穫祭で体験談を語ったメ
ンバーのひとり、西川亮さ
ん（経営学部3年）は「企
業インターンシップとは違
い、農業を通して異世代の
方々との交流を深めること
ができ、良い社会勉強をし
ました」と成果を語りまし
た。同事業により、学生たち
の環境問題・食の安全に対
する意識・異世代交流によ
るコミュニケーション能力
が向上し、大学と地域の連
携は年々深まっています。